

本フォーラムにおいて、高知県が、県民の誰もが住み慣れた地域で、安心して暮らし続けることのできることを目指して、平成22年2月に、保健・医療・福祉の各分野の課題を分析し策定した「日本一の健康長寿県構想」の一つの柱である「地域地域で安心して住み続けられる県づくり」では、平成30年度から、医療・介護・福祉等のサービスを切れ目のないネットワークでつなぎ、本人の意向に沿って生活の質を向上させることを目指した「高知版地域包括ケアシステムの構築」に向けて取組を加速化することとしており、その発表を行った。

高知県では、医療・介護・福祉等のサービス資源のさらなる充実・強化をするために、地域地域において、あったかふれあいセンターを中心とした高知型福祉の取組を更に充実させることや、地域の医療体制や地域で暮らし続けられるよう地域における介護の仕組みなどを更に充実させていくような取組を進めていくこととしている。また、今年度からサービス間の連携を強化する仕組みづくりに重点的に取り組むとともに、それら全体をシステム化していくことに力を入れることとしており、医療・介護・福祉の接続部を担う、高齢者等に必要なサービスをつなぐ役割を持つ人材として「ゲートキーパー」の機能強化を図るよう取り組んで行くこととしている。

さらに、推進体制の強化のために、平成30年4月から各福祉保健所に、地域包括ケア推進監又は地域包括ケア推進企画監を配置し、市町村に対して伴走型支援を行っている。福祉保健所圏域を地域資源等の状況に応じて2又は3ブロックに分け、平成30年度は1ブロック目、平成31年度は2ブロック目、平成32年度は3ブロック目と、毎年、新しいブロックで取組を開始し、1ブロック2年計画で各ブロックの地域包括ケアシステムの構築に取り組むこととしている。

現在、中央東、須崎、幡多圏域では、地域包括ケア推進協議体を開催し、今年度、取組を進めるブロック内の課題の洗い出し等を進めているところである。安芸、中央西圏域についても、協議体の開催に向け関係者との調整を進めているところである。

【日本一の健康長寿県構想】

